

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	1671700191		
法人名	社会福祉法人 宇奈月福祉会		
事業所名	宇奈月グループホーム		
所在地	富山県黒部市下立37		
自己評価作成日	平成27年11月12日	評価結果市町村受理日	平成27年12月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階
訪問調査日	平成27年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園地帯に位置し山を眼前に配し自然の中の静かな環境である。目の前には中学生の通学路がありにぎやかな通学風景がみられる、地域との繋がりを大切にするために、地域行事の見学や、買い物、外出、地域交流会、ボランティアの受け入れ(理容、朗読、民謡サークルへの参加、化粧等)等で地域との交流を持っている。日々の生活の中でそれぞれの出来ることをそれぞれのペースを大事にしながら、生活リハビリ(調理、洗濯、家事作業など)をとおして役割をもちながら達成感を味わい好きなことをしながら生活を送っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念「地域と共にあなたと共に笑顔の花を咲かせます。それが私たちの仕事です。」を掲げ、「ゆっくり、一緒に、楽しく」をモットーに利用者本位のサービス提供が実施されている。地域のつながりを大切に、地域行事、ホーム行事、サツマイモ栽培など、地域の方々との交流が盛んに行われている。アセスメントシートを活用し、利用者の残存能力の把握に努め、利用者個々の出来ることを生活の中に取り入れ、“ありがとう”や“ねがい”の言葉をかけながら一緒に行っている。利用者が役に立っているとの達成感を感じ、ホーム内での自分の居場所を見つけていただけるよう取り組んでいる。また、同法人の他サービス事業所と協力・連携を図り、ケア対策の充実や職員の質の向上が図られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念“地域と共にあなたと共に笑顔の花を咲かせます。それが私たちの仕事です”を、掲げ管理者・職員で、共有し利用者や地域の方と共に実践している。	理念は事業所内に掲示し、年度初めの支援要領を話し合う会議で理念の共通認識を図っている。理念に基づいた個別ケアを職員会議で検討し、「ゆっくり、一緒に、楽しく」をモットーに日々のサービスで実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買物や地域行事の参加、近隣の地域の方との交流やボランティアやサークル活動への参加を通して地域の方々と交流を持っている。	季節ごとの地域行事(七夕祭り・運動会等)や公民館での民謡サークル活動、事業所の納涼祭や事業所畑でのサツマイモの植え付け、収穫に地域住民が参加している。買い物時には挨拶を交わし、ボランティアを受け入れるなど、積極的に交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民との交流の際に認知症の方の理解を伝え、受け入れ態勢を作り上げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業計画やその都度に事業報告を行い地域老人を中心にして、利用者と地域とどう関わりをもっていくか助言・意見を頂き、サービス向上に努めている。	会議は2ヶ月ごとに開催し、ホームの運営状況や活動内容を報告し意見交換が行われている。自治振興会長・老人会長・民生委員の意見・情報を活かし、地域高齢者との交流の機会を増やしたいと取り組んでいる。また、家族全員に会議の出席を依頼し、忌憚のない意見・要望の把握に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員から、運営推進会議を通して関わりを持つようにしている。	市地域包括支援センターは運営推進会議でホームの実情を知っていただき、いつでも相談・助言をいただく関係を築いている。市主催の地域ケア会議や研修会で連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠することなく、自由に出入りできるようにしている。職員全体で、常に安易に身体拘束に及ぶ事のないように周知徹底している。	研修会で身体拘束のリスクや具体的な内容を理解し、職員会議で個別の対応を検討して、身体拘束をしないケアが日々実践されている。また、帰宅願望の強い利用者は家族と相談し協力を得て、利用者本位のケアが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修に職員は参加して、研修報告を行い、管理者・職員で、周知している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実践者研修に参加して、権利擁護に関する制度の理解に対して学習し、管理者、職員で学ぶ機会をもっていく。(予定)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前調査を行い、事業所情報を説明しており、契約の締結、解約改訂の際は、説明を行い、書面を通して理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と共に過ごす生活の中で、思いを汲み取りケアに反映している。家族に対しては面会の折、情報報告をしたり相談や意見を聞き取り対応したりしている。苦情箱を設置して意見を求めている。年に一度家族会を開催して意見交換をしている。	広報誌(年4回)でホームの生活ぶりを報告し、面会や運営推進会議・家族会で積極的にコミュニケーションを図り意見・要望の把握に努めている。その意見・要望は記録して、職員全員で共有している。また、家族情報から利用者の大切な物や嫌がる言動の把握に力を入れ、日々のケアに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の責任者会議があり、代表者との意見交換をしている。月1度の職員会議を通して情報交換、意見を聞く。11月、12月に個人面談を行い意見を聞く機会をつくっている。	職員は職員会議や自分探しの自己評価後の管理者との個人面談で、意見・提案を言う機会を持っている。管理者は法人の責任者会議で職員の意見・提案を報告、検討して、運営やサービスに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はこまめに現場に出入りして職員の様子を把握している。年に1回人事考課を行い、職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コンサルタントによる、職員研修を行ったり、法人内で、全体研修を行い、職員の資質向上に努めている。又法人外の研修にも随時参加する機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会会員であり、協議会開催の研修に参加して、県内のグループホーム職員との交流を行っている。又近隣のグループホームとの交流事業を引き続き行い情報交換を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査において、本人に対する情報を出来る限り確保して本人の思いを聞きとるようにしている。又信頼関係作りに職員全体で取組み不安のないようにするように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安であるという事を踏まえ、本人の様子をこまめに報告していき、要望を聞き取り安心できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居申請時において、家族や本人の様子を受け止め、十分に話を聞いていきグループホームの様子もつたえいき、本人に適したサービス提供に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にしていくという気持ちで利用者と過ごす時間を大切にして”一緒にゆっくり楽しく”をモットーに食事作りや作業を行い労いながら生活している。又お茶の時間や会話で寛ぎの時間をもっていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の折にはお茶を提供して慌てさせずゆっくりと過ごしていける環境をつくっている。その際には情報報告のみならず、要望を聞きとるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に出向いたり、地域の方の集まる場所に行き関係が途切れないように努めている。	地域行事の参加や利用者の希望する場へのバスハイク・同法人の他サービス利用の顔なじみの方々との交流など、馴染みの人・場への関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自然に集い関わりがもてるようにテレビ前にソファを設置して集まりやすい環境設定をしていっている。外出やレクリエーション活動などで、利用者同士が楽しい時間を過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了しても、関係作りができるようにボランティア活動をしていただいたりして、グループホームへの理解をしてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中から、一人ひとりの要望をくみ取る事が出来るように、細やかに観察する事に努めている。本人の立場に立って本人本位の姿勢で洞察するようにしている。	家族情報やアセスメントシート・24時間対応で記録している個別日誌から、暮らし方の希望・意向の把握に努めている。個別日誌には、職員の気づきや言動を利用者の言葉で記録し、アセスメントシートを定期的に見直し、その時々思い・意向につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネージャーから出来るだけ情報提供を収集して、暮らしの把握をしている。又、利用者のアセスメントとして、センター方式シートの一部を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の様子を細かく観察して、個別日誌に時系列にそって、記録を行なっている。その情報を元に本人の状況把握して、ケアに反映している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは6カ月毎に作成している。月1回の職員会議で、日々の生活の様子を反映しながら、担当者及び職員全体で協議し、よりよい生活が出来るように協力体制を行なっている。	6ヶ月ごとにモニタリングを行い職員会議で利用者本位に検討し、現状に即した介護計画が作成されている。心身状態変化時は、その都度見直している。利用者・家族から聞き取った意向や要望を計画に反映し、家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中～夜間と24時間時系列に沿って日々詳細に個別記録をとり、職員間で、見落とす事の無い様に共有を図っている。又その情報をケアプラン見直し・作成に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向に沿い、併設施設提携医療機関への受診や他医療機関の通院を家族と共に柔軟に行なっている。又、併設施設への慰問や行事参加に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方による、趣味サークルに参加することで、生活の幅が広がっている。又、地域の伝統行事や地域の運動会を見学していく事で、地域の仲間入りが出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医や嘱託医との連携をして本人の健康管理を行なっている。嘱託医、協力医への受診は職員が同行している。（それ以外は、基本 家族が同行）	利用者・家族が、希望するかかりつけ医を選択できる。家族付き添い時には、書面や口頭で情報提供し必要時には同行している。嘱託医とは週2回の往診や24時間協力体制を築き、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設特養に日中、看護師が常駐しており双方連携し、相談・助言をもらうなど常に協力体制を図っている。時には、嘱託医の指示のもと範囲内の医療的処置も行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院と同時に家族には、事業所の方針を伝えていき、本人・家族に不安を与えないように、説明し、安心して治療に専念するようにしている。入院中もこまめに情報交換を行ない退院後も引き続き施設での生活が出来るように相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いの中で、機会をつくり重度化した時の方針などを話合う。（相談もあり）日常的医療処置が出来ない事を伝え、特養を含め近隣施設への入居申請を勧めている。家族に対して、不安を煽るような事の無い様に留意している。	契約時には、事業所の出来ること・出来ないことを説明し理解を得ている。重度化や心身変化時にはかかりつけ医・家族と話し合いを持ち、家族の意向を確認し相談や情報提供を行い、家族の不安につながらないよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回 定期的に救急救命研修を職員研修として受講している。緊急時のマニュアルを掲示して、適切に対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 法人全体で火災・地震対応避難訓練を行なっている。また、地域住民にも協力体制の依頼を取っている。	災害時には法人内の事業所が連携して対応できるよう、事業所ごとのマニュアルを作成している。運営推進会議委員に訓練に参加していただき、更なる協力体制構築につなげたいと考えている。地区防災訓練の参加や災害時の備蓄品が準備されている。	利用者個々の状態に合った具体的な避難方法を職員全員で身につけるよう、法人全体訓練他ホーム単独での訓練を実施する取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し否定的・指示的な言動をすることのないように職員間で心がけている。プライバシーを損ねることのないように言葉かけや環境整備に努めている。	職員会議(月1回)で、人格を尊重しプライバシーを確保した利用者個々の言葉かけや接遇方法を確認しながら、利用者のペースに合わせ自己決定を促したケアが実践されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で利用者の意向を察知できるよう観察を行ない、できるだけ利用者の選択・自己決定できる場を提供していくよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員中心の環境にならないようにして、一人ひとりのペースを大切にその人らしく過ごしていけるような生活支援を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこれまでの生活習慣や好みを尊重し、その人らしい身だしなみを支援している。家族対応による美容院利用や、地域の美容ボランティアの協力により散髪してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から食事作り(下ごしらえ)盛り付け、後片付けの一連の行為を共に行ない、皆と一緒に食事をとることで楽しい時間になるようにしている。	利用者のできる調理作業を一緒に行い、職員と食卓を囲み会話をしながら食事している。週3回の利用者の希望を取り入れた食事や季節ごとの手作りおやつ・バスハイクや買い物時の外食、喫茶など、食事が楽しみになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービス(管理栄養士の献立作成)を中心に栄養バランスを考えた食事を提供している。食事・水分量をチェックし一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをし一人ひとりに合った用具を使用し介助を行なっている。就寝時は義歯を外してもらい消毒管理している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄表を記入し、一人ひとりの排泄状況に合わせて声がけや誘導などの支援をしている。残存能力を活かしてトイレでの排泄をできる限り行なっている。	24時間対応の排泄記録や習慣を活用して、時間ごとの誘導・声かけを行いトイレでの排泄を支援している。利用者のできる排泄行為は見守り、自尊心や羞恥心に配慮したケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食品や毎朝の乳酸菌飲料・牛乳などを摂取することで、便秘解消策を行なっている。運動不足にならないように、散歩や体操などを無理強いせずに日課に取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日お湯はりをして、いつでも入浴できるようにしている。個々の状況に合わせてタイミングをみながら無理なく入浴できるようにしている。菖蒲湯や柚子風呂など、季節感を楽しめる入浴にしている。	週2～3を目安に体調や希望に合わせて職員と1対1で、利用者のペースでゆっくりと入浴している。浴場は広く両サイドから介助ができるよう檜浴槽を真ん中に設置し、移動状況が悪化した場合は同法人内の機械浴を利用するなど、安心・安全に入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムに合わせて休息がとれるように環境づくりをして支援している。空調や採光管理に配慮し、日中の程良い活動量で夜間安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の既往歴や処方された薬情などの書類を保管していつでも見られるようにしている。薬を管理することで、日々の状態観察を行ない変化に気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴をもとに、個々の能力に応じた役割(軽作業・食事・家事作業など)を無理なく提供したり、趣味活動の機会をつくり達成感を感じてもらいながら楽しく生活を送っていけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日ゴミ捨て散歩を日課に取り入れて、無理なく参加できる環境にしている。週3回の買い物では地域の方の協力やバスハイクでは家族に協力して頂き、外出支援をしている。	年間行事計画を作成し、季節の花見や地域行事・利用者の希望する場へ(バスハイク:月1回)外出している。日常的に散歩・買い物(週3回)に出かけるなど、外出の機会を多く持っている。また、バスハイクでは家族に参加を依頼し、一緒に楽しんでいただいている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理が出来ない状況のため家族了承のもと、全員の小遣いを預かり薬代・排泄用品代・嗜好品購入などの支払いを代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話をしたりする場面はないが、希望があれば職員と共に利用できるようにしていく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい生活空間をつくるよう、季節の花を飾ったり装飾品を飾ったりしている。採光や空調の温度管理に、温度計を設置してこまめに調節している。五感を活かし快適な生活を感じられるようにしている。(食事づくり・会話・生活音)	数寄屋作りの日本家屋で、木のぬくもりや暖色の照明で落ち着いた心とむホームになっている。リビングの大きな窓から季節ごとに姿を変える田園風景が広がり、ソファや椅子を適所に配置し、廊下には畳の小上がりや木製ベンチが設置され、利用者が思い思いに落ち着いて過ごせるよう配慮している。また、過度の装飾をせず居心地良く過ごす生活空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室からリビングへ向かう途中(中間的場所)に畳・ベンチコーナーを設けたり、リビングテレビ前にソファを置き一人または利用者同士で思い思いに過ごせるような生活空間をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、本人の使い慣れたタンスや寝具・装飾品の持ち込みをしてもらい、居心地の良い空間をつくっていくように工夫している。	居室は広々と明るく、トイレ・洗面台・ベッド・テラスが設置され、自宅から使い慣れた家具・家族写真・好みの装飾品が持ち込まれている。使いやすさや移動状態を考慮しベッドや家具を配置し、居心地良く過ごせるよう配慮している。また、居室前スペースに木製ベンチが設置され、各居室が独立した個々のプライバシー自室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーで適切な場所に手すりがあるなど安全な生活環境を提供している。一人ひとりの出来ること・わかることを見極めながら自立支援に努めている。		

(別紙4(2))

事業所名 宇奈月グループホーム

作成日: 平成 27年 12月 27日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	利用者個々の状態に合った具体的な避難方法を職員全体で身につけるよう、法人全体訓練他ホーム単独での訓練を実施する取り組みに期待したい。	全体における避難訓練は、引き続き法人主体で行ない参加していくが、グループホーム単独でも、レクリエーション活動を利用して、第1避難場所に個々に応じて避難行動を行ったり、地震を想定して机の下に隠れたりする動きを経験していく。	避難誘導後は散歩を楽しんでいきたいと考え、気候のいい春以降を実施期間と考えていく。又地震想定時の訓練も同様と考え実施していく。(合図で個々に応じて机の下に隠れていく)	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。